

奥能登原木しいたけ

「のとてまい」・「のと115」だより

<発行者> 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県奥能登農林総合事務所 森林部

コナラ等の原木伐採について

伐採時期

- ・伐採時期は、黄葉初期～3月の芽が出る前まで(ただし、厳冬期は避ける)
- ・コナラの伐採適期は、黄葉初期～7分の時期(10月下旬～11月上旬)
(最低気温が7℃を切った頃から黄葉がはじまる)
- ・切り倒したまま2～3週間程度置き(葉枯らし)、葉が萎れてきたら玉切りを行う
- ・シデ等の樹皮が薄い原木は気温の低い寒中が適期

伐採適期の利点

- ・原木内の貯蔵養分が多い
- ・樹液の流動休止期で樹皮が剥がれにくい
- ・伐採後の葉枯らしが可能



葉枯らしの利点

- ・葉枯らしにより材中の水分と空気を置換し、シイタケ菌に必要な酸素を材中に 与えることができます。
- ・心材(木の芯部分)の水を抜くことができます。
- ・シイタケ菌は「死物寄生菌」のため、生木では生長できません。このため、原木を有効に活用するためには均一に枯死させる必要があります。



【枯死していないホダ木】

伐採適期が過ぎた場合

- ・やむを得ず、冬(12月～3月初旬)伐採する場合は、伐採後すぐに玉切りし、1箇月程度、雪、雨、陽の当たらない場所で水分を抜いてから植菌します。
- ・この時期に伐採した場合は木の表面の水を抜くだけで問題ありません。
- ・3月中旬に伐採した場合は、伐採後すぐに玉切りし、その後すぐに植菌します。
- ・玉切り原木を購入する場合も同様に行ってください。



(裏面に続く)

これからの散水作業について

今年の夏は気温が高かったことに加え、降水量が少ない夏でした。9月に入っても雨は少なく、連日乾燥注意報が出ていたほどです。

昨年は乾燥によりシイタケ原基(芽のもと)が少なくなってしまうことにより収穫量が減少してしまいました。散水をしないとほだ木は乾燥する一方です。降雨後でも散水を実施して芽数を増やしましょう。

能登駐在で現在実施している試験では、12時間/週の散水では乾燥を抑える程度の効果しかありません。24時間/週の散水で、ほだ木に水を含ませることができます。

実際には24時間散水を行うのは難しいので、雨が降る前や後に散水する、短い時間でも頻繁に散水する、といった方法が考えられます。

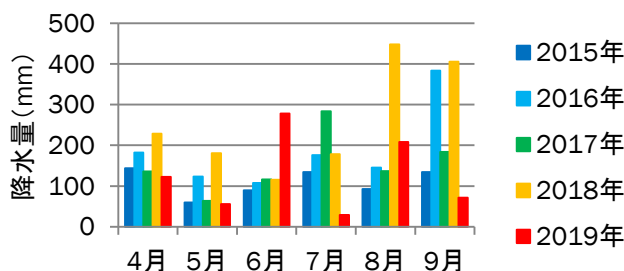
どれだけの時間、頻度で散水するのが効果的かはまだ試験中なのでお示しすることはできません。

散水の目安としては、散水前のほだ木重量から0.5~1kg/本くらい重くなるまで散水すると、24時間浸水したのと同程度の水分がほだ木に含まれます。

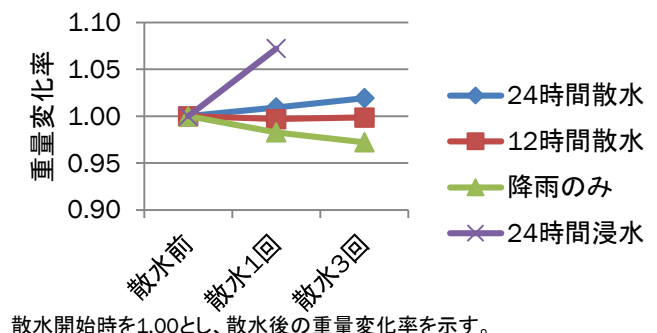
また、散水は一度行えば良いというものではありません。天気が良いと1週間で0.1kg/本程度水分が抜けていきます。

これらの点に注意して、良質なほだ木を作ってください。

最近5年間の降水量比較
(輪島観測所)



散水による原木重量の変化率



- ・全農いしかわ穴水事務所(脊戸)
- ・日本きのこセンター北陸駐在(平野、梶川)
- ・石川県奥能登農林総合事務所 森林部(森川、山口)
- ・石川県農林総合研究センター(能登駐在)(八島)

Tel 0768-52-1240

Tel 076-223-2956

Tel 0768-26-2329

Tel 0768-67-2104